



生命保険ニ於ケル被保険者ノ自殺ヲ論ズ(2)

石川, 文吾

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 22(5):787-802

(Issue Date)

1917-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052704>



生命保險ニ於ケル被保險者ノ自殺ヲ論ズ (其二)

東京高等商業學校教授

石 川 文 吾

五

海外ノ生命保險界ガ此被保險人ノ自殺問題ヲ如何ニ取扱ヒツ、アルカヲ一瞥センニ近頃刊行サル、海外ノ書籍ハ皆一樣ニ全體ニ於テ保險ノ約款ガ年々保險ノ利用者ニ有利ナル方面ニ改正セラレツ、アル事ヲ切言ス。即チ先ヅ法令トシテハ匈牙利ノ商法第五百四條及ビリユクサンブルグノ千八百九十一年五月十六日ノ保險法ガ被保險者若シ自殺スル時ハ反對ノ特約ナキ限り、保險者ニ責任ナシトノ意味ヲ規定シ特約ニ依リ是ヲモ保險者ニ負ハシメ得ルト定メタルナリ (Lefort: *Op. cit.* T. III, p. 65)。^{*}保險約款ニ付キテハ澳匈國ニ營業シツ、アルモノ、夫レニ關シテ Franz Kendel ノ著 *Versicherungs-Bedingungen der in Oesterreich-Ungarn operierenden Lebens-Versicherungs-Gesellschaften*, Wien, 1901 アリ澳匈國ノ會社二十五ノ外、獨(十一社)佛(二社)英(二社)蘭(一社)白(一社)等ヨリ渡來シテ營業シツ、アル外國會社ノ約款ヲ對照列舉セ

ルモノニシテ其ノ出版ガ古キヨリ見レバ是等會社ノ現行約款ヨリモ載スル處概シテ嚴ニ失シ居ルヲ想ハシムルモ暫ラク此ノ書ニ據リテ注意スベキ點ヲ舉グレバ、何レモ自殺ニ付キ或期間ニ互リテ支拂責任ヲ除外セザルモノナク其ノ期間ハ五年トスルモノ最モ多ク三年トスルモノ之ニ次グリ、四ノ會社ハ此ノ期間後ニ於ケル自殺ニ對シテモ支拂フベキ保險金ノ最高額ヲ一件一萬[クロ一ネ]ニ限ル事ヲ規定シ、二ノ會社ハ被保險者ガ不治ノ難病ニ罹リ居タル時及ビ精神錯亂ノ狀態ニアリシ事ヲ條件トシ、一ノ會社ハ其ノ會社ノ當局者ガ特ニ保險金ノ支拂ヲ可ナリト認ムル事情アリシ時ヲ條件トシ、何レモ責任除外期間中ノ自殺ト雖モ保險金ノ支拂ヲ行フ事ヲ明約シ、四ノ會社ハ自殺ガ被保險者ニ責ヲ負ハシムベカラザル事情ニ出デタル場合ニ於テ (Selbsttötung in unzurechnungsfähigen Zustände) 三ノ會社ハ保險契約ガ債權者ノ爲メニ締結セラレタル場合ニ限り、特ニ上記除外期間ノ規定ヲ適用セズト定メ、三ノ會社ハ被保險者ガ刑ニ處セラルベキ事情ノ下ニ自殺ヲ爲シタル時(吾人ガ前文(三)ニ述ベタル適法ノ壓迫ノ下ニ行ハル、不任意的自殺)ハ除外期間ヲ無限ニ延長シ、假令成約後何年ヲ經過スルモ保險金ノ支拂ヲ爲サル事ヲ明ニシタリ。

合衆國及ビ加奈陀ニ於ケル保險會社ノ定ムル處ヲ引用セン爲メニ吾人ハ Spectator Coy. ノ出版ニ係ル Analysis of Policy Conditions of American and Canadian Life Insurance Companies, New York, 1908 ニ據ラントス。此書載スル處ノ保險會社ノ數八十九社ニシテ其ノ著シキ特色ハ概シテ自殺ニ對スル責任除外ガ甚シク寛大ナル事之ナリ。蓋シ米國ニ於ケル生命保險會社ノ競争ガ舊大陸ノ夫レニ比シ一層激烈ナル結果ナルベキト同時ニ、時世ノ推移ニ伴ヒ斯ル除外規定ガ漸次輕減セラレ終ニハ或ハ全ク撤廢セラル、ニ至ルベキ形勢ヲ示スモノナリ。即チ八十九社中除外期間ヲ僅ニ一年ト定メタルモノ實ニ六十四社、二年ト定メタルモノ二十一社ニシテ殘餘ノ四會社ハ全ク除外期間ヲ設ケズ契約成立ト同時ニ自殺ノ危險ヲモ負擔スルモノナリ Confederation Life, Baltimore Life, New York Life, Standard Life of Scotland ノ四會社ハ實ニ此ノ最後ノ破天荒ナル規定ヲ設ケタル勇敢ナル先鞭者ナリ。少シク注意スベキハ Capitol Life, Lincoln National 等七ノ會社ガ其ノ規定中ニ Suicide ナル文字ヲ避ケテ Self-destruction ナル文字ヲ使用スル事之ナリ。事或ハ何等意味ヲ有セザル偶然ノ事實ナルベキモ字義上獨語ノ Selbstmord ト Selbst-Entleibung トノ差別アルモノ、如シ或ハ是等會社ノ趣旨ハ偶然的自殺ノ場合ヲモ含マシムルニアルナキヤヲ思ハシム。十

一ノ會社ハ其除外期間中ノ自殺ヲ廣義ニ解シ其精神狀態ノ如何ヲ問ハズ (Sane or insane) 保險金ノ支拂ヲ行ハザル事トシ、二會社ハ明カニ精神錯亂ノ結果ニ出デタリト認メラル、自殺ニ付キテハ除外期間中ト雖モ其責ニ任ズ。而シテ保險金不支拂ノ場合ニ保險者ノ支拂フ金額ニ付キテハ制定甚ダ區々タリ。此點ニ付キテハ明白ニ規定セザルモノモアレドモ明文アルモノ、ミニ付キテ察スルモ著シク保險契約者又ハ保險金受取人ノ利益ヲ重ンズル事跡歷然タルモノアリ。即チ單ニ被保險人ノ爲メニ積ミ立テタル金額ノ返戻ヲ爲スモノ十七會社、既收保險料以內ノ金額ヲ返付スベシト約セルモノ一會社、既收保險料ノ全額ヲ返付スルモノ三十七會社、既收保險料ニ年五分ノ利子ヲ附シテ返付スベシト規定セルモノ一會社、保險料既收額ノ二倍ヲ返付スルモノ一會社、而シテ一ノ會社ハ保險金額ノ二十分ノ一ノ支拂ヲ約シ、三ノ會社ハ保險金額ノ十分ノ一ヲ返戻スト定ム。若シ單純ニ自殺ニ依ル死亡ヲ以テ保險者ノ保險金支拂ノ原因タラシムベカラズト論ズルニ於テハ單ニ責任準備金ノミノ返付ヲ爲ス事最モ當ヲ得タリト斷定シ得ベケンモ、斯クモ多數ノ會社ガ前記ノ如ク進ンデ其以上ノ支拂ヲ辭セザル、所以ノモノハ畢竟彼ノ國ノ保險業者ノ間ニ自殺ヲ以テ契約ノ失効ト同様ニ看做スノ非ナル事ガ承認セラ

レ來レル反影トモ見ルベキニアラザルカ。

新西蘭ニ於ケル官營生命保險ニアリテ採用シツ、アル約款亦甚ダ保險金受取人ニ有利ナルモノアリ曰ク「若シ保險證券ノ日付後六箇月以内ニ被保險者自殺スルニ於テハ其ノ當時ノ意志ノ健全ナリシト否トニ拘ラズ保險金ヲ支拂ハズ、但シ保險事務官ニ於テ其ノ被保險者ハ契約ノ當時自殺ノ計畫ヲ有セザリシ事ヲ認ムル場合ニハ此規定ニ拘ラズ保險金ノ支拂ヲ爲スベシ」ト(Transactions of the Second International Actuarial Congress, p. 198)其ノ除外期間ノ無比ニ短キト除外中ニ更ニ反對ノ除外ヲ設ケテ保險金支拂ノ機會ヲ多カラシメタルト共ニ翫味スベキナリ。

六

上文述ブル處ニ依リ吾人ハ自殺ニ依ル死亡ヲ除外スル事ガ格別理由ナク、然カモ數多ノ場合ニ於テ苛酷又ハ不公平ナル結果ヲ生ズベキ事。自殺ナル文字ノ意義ガ廣狹一樣ナラザル爲メ苛酷ニモアラズ不公平ニモアラザル除外規定ヲ設クルノ甚ダ困難ナルベク、強テ簡單ナル膠柱の規定ヲ設クルニ於テハ往々ニシテ紛爭訴訟ノ種子トナルニ留マルベキ事。及ビ海外先進國ノ保險者ノ規定ガ年ヲ經ルニ從ヒ責任除外ノ範圍ヲ縮少シ其ノ或モノニ至リテハ全ク自殺ニ對シ除外例ヲ設

ケザルニ至レル事ヲ略說シ得タリト信ズ。

惟フニ内容ノ甚ダ複雑ナル自殺ナル行爲ニ對シ吾國ニ見ル如キ單純ナル規定ヲ以テシテ非難ナキヲ期スルハ難事タルベシ。現行ノ約款ニ幾多ノ但書又ハ註解ヲ加ヘタル位ニテモ尙妥當ナル約款タルヲ望ミカタルベキハ海外ノ保險者ガ可ナリ長文ヲ以テ認メタル約款ガ殆ド一モ疑議ナキモノヲ認メ得ザルニ依リテモ察シ得ラル。爰ニ於テカ吾人ハ寧ロ自殺ニ關スル吾國ノ普通保險約款ニ大訂正ヲ加ヘテ。

「被保險者ガ保險金ヲ得ンガ爲メニ自殺又ハ自殺ヲ企テタル結果死亡シタル時ハ保險者ハ保險金ヲ支拂フ責ニ任ゼズ」

ナル簡明ナル文字ヲ爲スベキヲ提議セントス。即チ保險者ハ被保險者ガ自殺スルモ尙保險金ノ支拂ヲ爲ス事ヲ原則トシ例外トシテ其ノ動機ガ保險金ヲ得ン爲メニアリシ時ノミ之ヲ立證シテ其ノ責ヲ免レ得ルナリ。斯ノ如クナレバ約款ノ除外スル自殺ノ意義ハ自ラ判明シ保險金ヲ得ンガ爲メニ意識的ニ故意的ニ且ツ任意的ニ行ハレタル場合ニ限ラレ直接死因タルト間接死因タルト自力ニ依ルト他力ニ依ルトヲ問ハザル事トナリ。數多ノ疑問ハ大概一掃セラレ保險者ハ不當ノ支拂

ヲ強ヒラル、恐ナク生命保險ハ始メテ其ノ趣旨ヲ全フスルヲ得ベシ舉證ノ責ヲ保險者ニ嫁セルハ保險者ノ苦痛トシ且ツ實行ヲ難シトスル處ナルベキモ元來被保險者死セバ保險金ノ支拂アルベキヲ原則トナス以上其ノ例外トシテ支拂ヲ爲サバル理由ヲ設クル爲メニハ保險者ガ證明ヲ爲ス責ヲ負フ事至當ナルベシ。現ニ佛國ニ在リテハ保險者ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズト定ムル被保險者ノ自殺ヲ意識的自殺(Suicide volontaire)ニ限リツ、アルモノナルガ。大審院ノ判決例ニ依リ保險者ニ於テ其ノ自殺ノ意識的ナリシヲ證明スベキ事ト定メラル。唯實際ハ保險證券上ノ特約ニ依リテ反對ノ約定ヲ爲シ保險金受取人ヨリ保險者ニ對シ其ノ意識的自殺ニアラザリシ事ノ證明ヲ爲ス事トナリツ、アルナリ。(G. Hamon: Histoire générale des assurances terrestres, p. 534; Lefort: *Op. cit.* T. I, p. 389) 立證困難ナリトノ點モ事實ナルベキモ彼ノ火災保險ニ在リテ數々保險金ヲ得ンガ爲メニスル放火ガ發見セラレツツアル事實ヲ考ヘ來レバ必シモ保險者ニ求ムルニ至難ノ責任ヲ以テスルモノニアラザルベシ。

吾人ハ曩ニ(一)ニ於テ單ニ吾人ノ心理觀トシテ自殺ニ對スル保險者ノ責任除外規定ヲ緩ムル事ガ決シテ自殺ノ數ヲ増加セザルベキヲ斷言シタルガ更ニ統計年

鑑ノ數字ヲ借リテ被保險者ト普通人トニ就キ何レガ比例上多數ノ自殺者ヲ示シ居ルヤヲ檢セントス。左記第一表ハ現在吾國ノ被保險者ノ最大多數ノ屬スル二十歳乃至八十歳ノ年齢ニ在ルモノ、比較ニシテ第二表ハ被保險者中自殺ニ依ル死亡者ヲ出ダス事最モ多キ年代タル四十歳乃至五十歳ノモノ、第三表ハ之ニ次デ自殺被保險者多キ三十歳乃至四十歳ノモノニ就キ各同様ノ比較ヲ試ミタルモノナリ。

第一表

	被保險者			一般世人		
	死亡者總數	内自殺者	死者萬人ニ對シ自殺者數	死亡者總數	内自殺者	死者萬人中自殺者數
四十三年度	一二、七七四	一二九	一〇〇	五〇五、九四七	九、六〇三	一八九
四十四年度	一四、〇〇九	一四一	一〇〇	四九二、五二六	九、四九六	一九二
大正元年度	一五、一〇一	一五七	一〇〇	四九四、九一二	九、八一五	一九八
第二表						
四十三年度	二、八七六	四〇	一四〇	五八、〇〇三	一、二九九	二二〇
四十四年度	三、一七四	三四	一一〇	六六、六二五	一、二四二	一七〇
大正元年度	三、五一三	五一	一五〇	五七、四五七	一、三四六	二三〇
第三表						
四十三年度	二、六〇四	三一	一二〇	六三、三五六	一、五六二	二五〇
四十四年度	二、八一五	三七	一三〇	六一、九〇〇	一、六〇九	二六〇
大正元年度	三、〇四九	四三	一四〇	六一、九五六	一、五七五	二六〇

則チ知ル全體ニ通ジテ觀察スルモ將タ又被保險者中ニ自殺スル者最モ多キ年代ニ付キ觀察スルモ被保險者ニシテ自殺スル者ノ數ハ普通一般人ノ夫レニ比シテ甚ダ少ク被保險者ニシテ自殺ニ依リテ保險金ヲ得ン事ヲ企ツル者ノ或ハ絶無ナルベキヲ證明スル事實アルヲ火災保險ニ在リテハ被保險家屋ノ火災ニ罹ルモノ一般家屋ヨリモ多數ナルヤニ聞知スルモ人情ヲ考量シテ立論スルモノハ同様ナル事實ガ生命保險ニ現ハルベカラザルヲ容易ニ首肯スベキナリ人或ハ云ハン現時ノ如キ除外規定アレバコンスル數字ハ存スルナレ、保險會社ニシテ其ノ規定ヲ緩ムルニ於テハ其ノ結果ヤ知ルベキニアラズト。吾人ハ如何ニシテモ之ヲ信ズル能ハズ。James Gemmel氏ハ Scottish Union and National Insurance Coy.ノ社員ニシテ曾テ Economical Aspects of Fire and Life Insurance at the Present Day ナル論文ヲ草シテ彼地^アクチュアリー^會ノ懸賞ヲ得タル人ナルガ氏ハ其ノ論文中生命保險ノ被保險者ハ一般世人ヨリモ遙ニ其ノ生命ヲ大切ニスル事ヲ述ベテ

.....It will be conceded that those who are indifferent on the subject of the preservation of their dependents or themselves will not by their habits of life conserve the laws of health to the promotion of old age so well as those who are habitually prudent and thrifty, as are the majority of assurers.

ト説破セリ。保險ニ依リテ何時自己ガ死亡スルモ遺族ヲ窮セシムルノ患ナク老後

自己若シ營利ノ能力ヲ失フモ倚ルベキ資源アルヲ期待スルノ地位ニ在ル程用意周到ナル理智ニ長ケタル人タル被保險者ハ其ノ性質ニ於テ既ニ一般世人ヨリモ冷靜ニ且理性的ナルベク其ノ家族ニ對スル愛ヤ厚ク彼等ニ執着スルノ念從テ強カルベク其ノ位置ノ安キヲ樂ミ得ルガ故ニ保險ニ加入セザル人ニ往々見ルガ如ク自暴自棄タラザルベク彼等ハ保險金ノ爲メニ自殺スルノ愚ヲ爲ス事必ズヤ稀ナラン。

序ニ附記ス吾國ノ自殺統計ニハ見エザル事ナガラ丁抹、西班牙、佛國等ノ統計ガ掲グル結婚關係及ビ職業關係ニ依リ分タレタル自殺統計ノ結果ニ依レバ結婚關係ニ依リ異レル狀態ニ在ル人々ノ死亡總數ニ對スル自殺者ヲ分類スレバ離婚者、別居者ニ於テ其數最モ多ク獨身生活ノモノ之ニ次ギ有配偶者ハ最モ少シ。職業ノ種類ニ依リテ分テバ農業者最モ少ク商工業者之ニ次ギ所謂自由職業ノモノ亦之ニ次ギ無職者ニ至リテ最多數ノ自殺者ヲ出ダス事實アリ察スルニ吾國被保險者ノ大多數ハ其ノ結婚關係ニ於テハ有配偶者ナルベク職業關係ニ於テハ有職者ナルベク其ノ結果ハ當然被保險者中ノ自殺ヲ一般世人ノ夫レヨリ低位ニアラシムベキナリ。

吾人ハ繰返ヘシ提言ス生命保險者ガ被保險人ノ自殺ニ依ル死亡ニ對シテ取ルベキ最善ノ處置ハ保險金ヲ得ン爲メニ自殺セル場合ヲノミ除キ他ノ場合ニ付キテハ保險金ノ支拂ヲ爲ス事ニアルヲ被保險人ガ刑ノ適用ヲ厭ヒテ自殺スル時ノ如キハ或ハ前記澳匈國ニ營業スル或保險者ノ例ニ倣ヒテ永遠ニ之ヲ除外スルモ可ナルガ如キモ直接ニ保險金ヲ得ンガ爲メニ萬民必須ノ生命保險契約ヲ濫用セントスル自殺者ト區別セラレタル規定ノ設ケラル、ノ可ナルヲ信ズ。率先シテ此ノ目立チタル約款ヲ用フル事ニ由リ吾國ノ保險者ハ内ハ保險契約者被保險ノ良感情ヲ占ムベク外ハ契約募集上ニ好成績ヲ得ベク。而シテ又生命保險ノ眞意義ヲ遺憾ナク發揚スルニ近カルベシ。

七

粟津博士ハ其ノ名著保險論集中ニ被保險人ガ自殺セル時尚保險金ノ支拂ヲ爲ス事ノ不可ナルヲ切言シ米國ノ或保險會社ガ此ノ制限ヲ撤去セル結果其ノ被保險者中ニ自殺者ノ激增ヲ見ルニ至レル爲メ急ニ彼ノ制限ヲ復活シタリトノ頗ル注意スベキ記事ヲ掲ゲラレタリ（同書五二九頁）。博士ハ其ノ會社名モ此事實ヲ引用セラレタル書名モ掲ゲラレザレドモ此ノ論文ガ明治三十二年八月刊行ノ保險雜誌

ニ掲ゲラレ居タリトノ事實ヨリ推シテ蓋シ千八百九十五年頃ノ事ナルベキヲ察シ少シク古雜誌ヲ涉獵セル結果之ト甚ダ相似タル事實ヲ知ルヲ得タリ。夫レハ千八百九十六年十一月十五日刊行ノ *Monteur des assurances* 第三百三十八號ニ載セラレタル米國〔ミウチユアル〕生命保險會社醫務取締役 (*Directeur médical*) *Ellias J. Marsh* ノ報告書ニシテ〔ミウチユアル〕會社ハ千八百八十六年始メテ被保險者ノ自殺ニ對スル制限ヲ緩メ契約後二箇年ヲ經過セル時ニハ保險金ノ支拂ヲ爲スベシト定メタルニ其以前ヨリモ以後ニ於テ被保險者中ノ自殺數激增シ殊ニ注意スベキハ契約後二三年ヲ經タル揚句ニ於ケル自殺ガ多クナレル事ヲ掲ゲタルモノナリ。

此ノ報告ハ十頁ニ渉ル長文ノモノニシテ數多ノ趣味深キ統計ヲ載セアレドモ暫ラク煩ヲ避ケン爲メ其ノ特ニ注意ヲ要スルモノ一種ヲ左ニ錄シテ報告者ノ意ノ存スル處ヲ傳ヘントス。

成約後經過年數	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	五年未滿計	六年—十年	十年以上	合 計
一八八四年	二	一	一	二	二	八	六	一八	三〇
一八八五年	二	一	一	二	一	六	四	二〇	三〇
一八八六年	二	二	二	二	二	一〇	二	一二	二四
一八八七年	一	二	二	一	一	五	七	一五	二七
一八八八年	一	二	一	三	二	八	二	一八	二八

以上五年合計	八	八	六	九	六	三七	二一	八三	一四一
一八八九年	二	二	五	一	三	一三	六	二〇	三九
一八九〇年	一	三	二	四	一	一一	七	二一	三九
一八九一年	四	一	九	六	一	二〇	四	二〇	四四
一八九二年	四	二	二	四	六	一八	七	一七	四二
一八九三年	五	二	七	九	四	二七	一五	二〇	六二
以上五年合計	一六	一〇	二五	二四	一四	八九	三九	九八	二二六
前五年合計	二〇〇	一二五	四一六	二六七	二三三	二四〇	一八六	一一八	一六〇
百ニ對スル									
後五年ノ合計									

本表ハ千八百八十四年ヨリ千八百九十三年迄十箇年間ノ自殺ニ依リ死セル被保險者數ヲ舉ゲタルモノニシテ既記ノ如ク千八百八十六年規定ヲ改メタル結果其ノ年ニ此會社ト契約セル被保險者ハ千八百八十九年以後ニ自殺スルモ保金ヲ受ケ得ラル、事トナレルナリ。横ノ區劃ハ契約ノ繼續年限ヲ示セルモノニシテ其ノ欄内ノ數字ハ各年ノ自殺者ヲ契約ノ繼續ノ長短ニ依リ細別シタルモノナリ。表中千八百八十四年ヨリ千八百八十八年ニ至ル五箇年間ノ自殺者ガ其後ノ五箇年ニ於ケル夫レニ比シ概シテ甚ダ少キハ既ニ被保險者中保險金支拂ノ特典ヲ奇貨トシ故意ニ自殺セルモノ、多キヲ想ハシムルモ。此ノ數字ハ實數ナルヲ以テ被保險者ノ死亡總數ニ對スル自殺者ノ割合ヲ知ルヲ得ズ從テ新規定實行以來被保險

者ガ急激ニ増加シ其ノ結果割合ニ於テハ變化ナキモ絶對數ニ於テ増加セルノミ
トモ考ヘ得ベキモ看過スベカラザル不祥事ハ其ノ増加率ガ成約後十年以上ヲ經
過セルモノニアリテ甚ダ少ク(百對百十八)五年以内ノモノニアリテ甚ダ多ク(百對
二百四十)取リ分ケ三年目四年目等恰モ保險者ノ責任開始ノ時期ニ入リタル時ニ
於テ最モ多キ事之ナリ。而シテ此事タル決シテ被保險者死亡總數ノ多キガ爲メニ
然ルモノニハアラズ。何トナレバ成約後ノ第一年第二年ハ何處ノ保險會社ニアリ
テモ解約最モ多キ時ニシテ三年四年ニ達セル契約ハ二年未滿ノ契約ヨリ必ズヤ
少カルベク從テ假令身體診査ノ效果ヲ充分考量スルモ三年目四年目ノ死亡數ガ
一年目二年目ノ夫レニ比シ著シク多キ事アルベカラザレバナリ。此ノ表ノ示ス處
ニシテ信ナリトセバ自殺ニ對スル除外規定ノ短縮ガ自殺者ヲ増加スル事實或ハ
夫レ爭フベカラザルカ。

然レドモ此ノ報告ヲ寄稿セル前記マルシ氏ハ必シモ上記ノ事實ヲ以テ保險約
款ノ變更ニ原ケル被保險人ノ心得違ヒノ結果ト爲サズ左ノ如キ穩健ナル文字ヲ
以テ筆ヲ擱ケリ。

Il est possible qu'il y ait d'autres causes, non encore découvertes, de ce grand nombre de suicides. Le nombre total des cas est trop

faible, la série des années est trop courte pour qu'on puisse considérer la preuve comme satisfaisante : Une plus longue expérience pourro renverser les chiffres.

吾人亦上記事實ヲ以テ自殺ニ對スル除外規定ノ短縮ガ自殺ヲ多カラシメタル
ゴトニノミ歸スベカラズト考フルモノニシテ。マーシ氏ノ所謂未發見ノ原因タル
ベキ一二ヲ舉グレバ第一ハ彼ノ保險會社ノ約款改正ノ結果從來ハ假令被保險者
自殺スルモ自殺トナリテハ保險金ノ支拂ナキ關係ヨリ。保險金受取人ニ於テ或ハ
之ヲ他殺トシ或ハ過失ニ依ル死亡トナシテ只管自殺ノ名ヲ避ケンセルモノ多
カリシハ想像ニ難カラザル處ニシテ。一朝自殺ニテモ支拂フ事トナリテハ斯ク爭
ヒ立テスル必要ナキ儘ニ自殺ヲ認ムルニ至リ爲メニ過去ニ於テ自殺以外ニ計上
セラレシモノガ此度ハ自殺ノ部ニ入ルニ至レルモノアルベキ事之ナリ。同様ノ事
實ハ獨逸等ノ國ニテ勞働保險ヲ實行セザリシ以前ニ比シ實行後ニ於テ勞働者ノ
病傷ガ増加セル例ニ求メ得ベシ。勞働保險ハ病傷ヲ増スモノニアラズ。唯保險ナカ
リシ時代ニハ問題トナラズ届ケ出モナカリシ病傷ガ保險者ガ之ニ對シ支拂ヲ爲
ス事トナリシ爲メ漏ナク報告セラル、ニ至リ表面上ノ數字ヲ膨脹セシメタルモ
ノナリトハ學者ノ夙ニ認ムル處ナリ (Handwörterbuch der Staatswissenschaften, 1893, B.I,
S. 612.) 第二ハ此ノ當時ノ經濟界ノ事情之ナリ。千八百九十年ハ英國ニ恐慌生ジ爾

來彼國ノ資本家ハ米國ヲ始メ其他ノ新開國ニ卸シ來レル資本ノ回收ニ銳意シ其ノ結果ハ米國ニ大ナル不景氣ヲ齎ラシ他ノ事實ト相待チテ千八百九十三年ニハ米國ニ一大恐慌ヲ惹起シ五百五十ノ銀行ガ破産スルニ至レル事之ナリ。曩ニ掲ゲタル自殺ノ數字ガ恰モ此ノ時代ニ符合シ居ルハ其ノ間掬スベキ消息ナシトスベカラザルナリ。其ハ兎ニ角ミウチユアル會社ハ其ノ後モ決シテ自殺セル被保險者ニ對スル除外規定ヲ嚴重ニスル事ナク却ツテ之ヲ緩メ來リテ今ハ除外期間ヲ僅ニ一箇年ニ限リツ、アル事實ニ鑑ミ來レバマーシ氏ノ結論中ニ見エタル通り前記ノ數字ハ約款ノ變更ト大ナル關係ナキモノナルベシ。

歐米人ノ間ニハ稀ナル事ナルベキモ吾國ニハ古來孝子ガ其ノ窮セル親ヲ幸セシ爲メニ其ノ身ヲ犠牲トシ忠僕ガ其ノ主人ノ難ヲ救ハシ爲メニハ手段ヲ選バザル譚ノ存スルモノ多シ。或ハ恐ル被保險人ノ自殺ニ關スル約款ガ餘リニ寛大トナルハ曉ニハスル極端ナル仁俠又ハ忠孝ノ思想ガ保險ヲ惡用スルニ至ランカヲ。然モ斯ル場合ニ具フル爲メニハ契約ノ際其ノ地位ト保險金ト相當セルヤヲ調査シ被保險者加入ノ動機ヲ注意シ併セテ自殺前後ノ事情ヲ考究シテ其ノ弊ヲ避クルニ途アリ得ベシ。吾人ハ如何シテモ商法及ビ模範普通保險約款ノ改正ノ必要ヲ唱道ス。敢テ世ノ叱正ヲ待ツ。(大正六年三月五日稿)